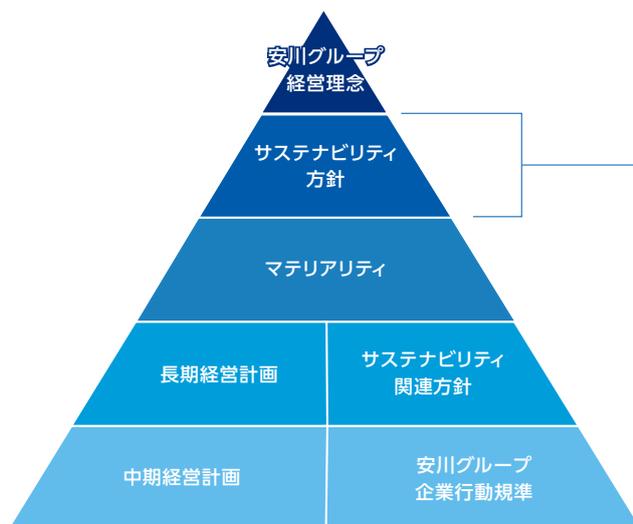


サステナビリティに関する考え方および取組み

当社グループは「安川グループ経営理念」のもと、「サステナビリティ方針」を2021年度に策定しました。この方針に沿ってマテリアリティを特定し、長期経営計画や中期経営計画における目標を展開することで、戦略的なサステナビリティの推進を図ります。また、進捗のモニタリングを行い、PDCAサイクルを回していくことで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

サステナビリティ推進の体系図



サステナビリティ方針

私たちは、安川グループの経営理念である「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献すること」を基本的な考え方とし、その実践を通じて持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めます。

1. 最先端のメカトロニクス技術によるイノベーション創出で、お客さまをはじめ社会への価値創造に貢献します。
2. 世界中のステークホルダーとの対話と連携を通じ、公正かつ透明性の高い信頼ある経営を実現します。
3. 世界共通の目標であるSDGsの達成を目指し、グローバルでの社会的課題の解決に取り組みます。

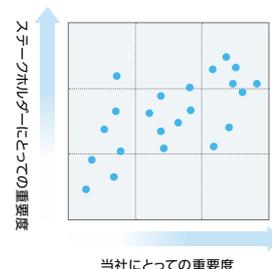
マテリアリティ特定のプロセス

STEP 1 課題のリストアップ

SDGsやGRIスタンダードなどの国際的なフレームワークやガイドライン、当社が関連する分野のマクロトレンドなどを参照しながら当社が持続的に成長するために関連する社会的課題を環境・社会・経済面から広範囲にリストアップしました。

STEP 2 課題の評価・特定

STEP1で抽出した課題について、「ステークホルダーにとっての重要度」と「当社にとっての重要度」を軸に重要度の高い項目を選定しました。そして、取締役会を含む社内会議で討議を行い、その中で特に重要度の高い課題をサステナビリティ課題・目標として特定しました。



STEP 3 課題に対する対策立案 (KPI設定)

STEP2で特定した重要度の高い課題について、社内会議で出た意見などを反映し、「事業を通じた社会価値の創造と社会的課題の解決」と「サステナブルな社会／事業に寄与する経営基盤の強化」の2軸に分けました。

そして、それぞれの強化領域および戦略の方向性を明確化し、定量的・定性的なKPIを設定しています。

サステナビリティ推進体制

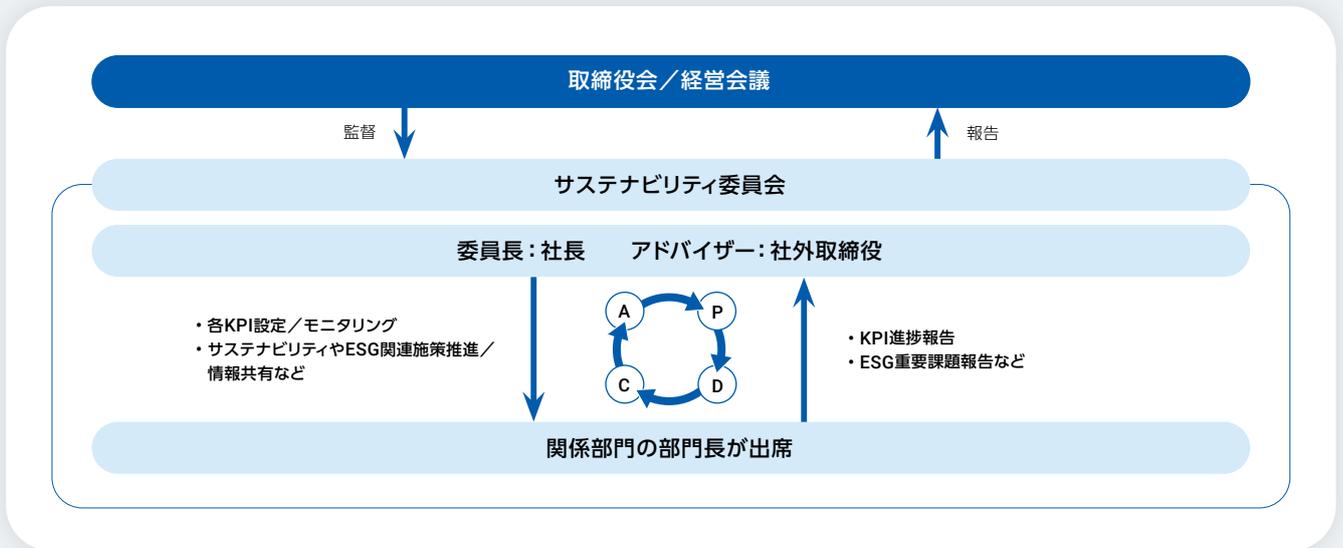
当社は、社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置しています。

本委員会には関係部門の責任者、またアドバイザーとして社外取締役が出席し、グループ全体のサステナビリティを推進しています。また、マテリアリティに関する重点施策・方針の企画、審議、グループ展開、モニタリングを行っています。

サステナビリティに関する取組み状況等は、定期的に取締役

会および経営会議に報告しています。

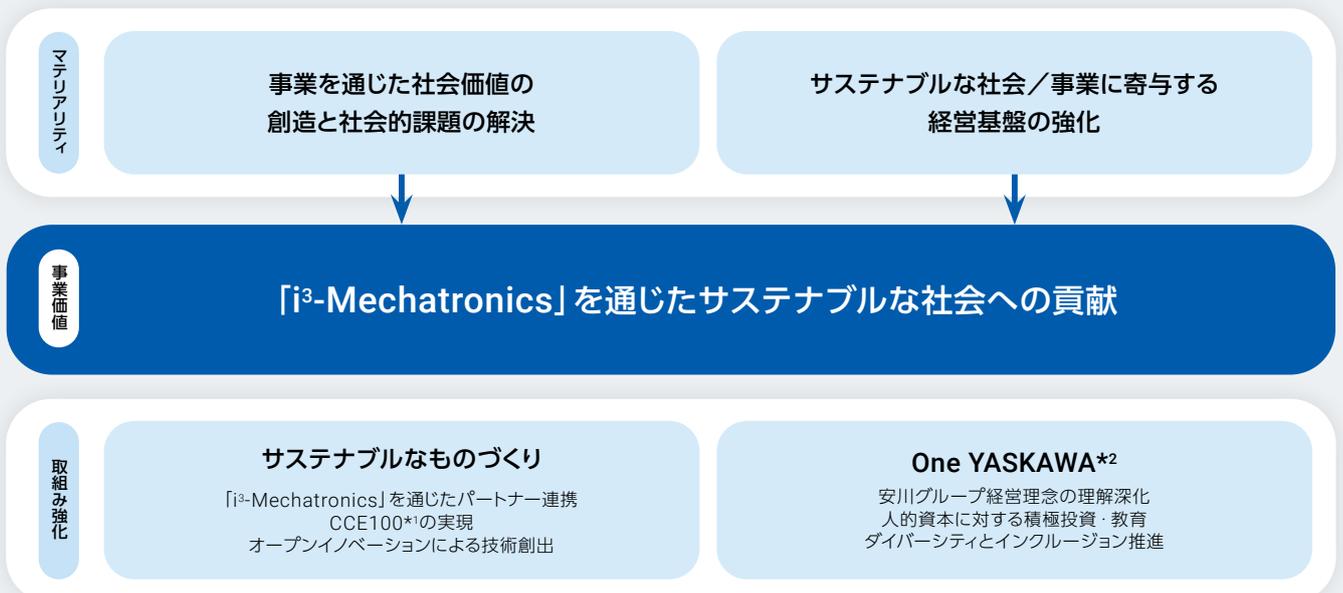
2024年度は2024年6月と11月にサステナビリティ委員会を開催しました。社内の経営層に加えて、社外取締役も参加し、各マテリアリティにおけるKPI、遂行状況、活動計画等について活発な議論を行い、一部KPIなどの見直しを実施しました。また、欧州企業サステナビリティ報告指令（CSRD）に関する取組みについても議題としました。



中期経営計画「Realize 25」におけるサステナビリティ推進の考え方

当社グループは、マテリアリティの取組み推進を通じ、事業価値である『「i³-Mechatronics」を通じたサステナブルな社会への貢献』を高めます。前中期経営計画「Challenge 25

Plus」における課題を、現中期経営計画「Realize 25」における強化ポイントとし、目標展開を図ります。



*1 CCE100 (Contribution to Cool Earth 100): 2025年度に当社製品によるCO₂削減貢献量を当社グループによるCO₂排出量の100倍以上とする目標

*2 One YASKAWA: グローバルに経営理念の浸透を図り、安川グループとして一丸となる企業文化を醸成する取組み

サステナビリティ課題・目標(マテリアリティ)の進捗

当社グループのマテリアリティに関する取組みおよびその進捗状況は以下のとおりです。サステナビリティ委員会を通じ、継続的にKPIのモニタリングを行い、PDCAサイクルを回していくことで、目標の達成と目指す姿の実現を図ります。

サステナビリティ課題・目標	リスク	機会	目指す姿
事業を通じた社会価値の創造と社会的課題の解決			
① 「i ³ -Mechatronics」を通じたパートナー連携で産業自動化革命の実現	最適なソリューションをお客さまに提供できないことによる、業績および財務状況への悪影響	最適なソリューション提供による、製品・サービスの差別化および高付加価値化	ソリューションコンセプトである「i ³ -Mechatronics」でお客さまの経営課題を解決し、社会および生産活動の改善や進化に貢献する。
② クリーンな社会インフラ構築と安全・快適な暮らしの基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ要求の高まりを背景とした、製品の性能競争激化によるR&D等投資コストの増加 少子高齢化やエネルギー消費拡大などの世界的変化に追従できないことによる事業機会の損失 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ製品の必要性が高まり、当社製品の需要が増加 新たなメカトロニクス応用領域における事業拡大 	<p>当社の技術力を活用し製品の環境性能を高め、製品拡販により世の中の環境負荷を低減させる。</p> <p>メカトロニクス技術を応用展開した新領域への挑戦を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する。</p>
③ オープンイノベーションを通じた新たな技術・事業領域の開拓	自社技術のみでの革新的技術創出が困難	オープンイノベーションを通じた革新的技術創出による世界初・世界一にこだわる技術開発力の強化	<p>M&A/アライアンスを活用し新領域での事業拡大を通じて社会に新たな価値を創出する。</p> <p>世界初、世界一の技術・製品開発に向け、社外との連携を推進する。</p>
サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化			
④ サステナブルな生産性の高いものづくり	<ul style="list-style-type: none"> 拡大する需要に対する生産能力・生産性の不足による、お客さまへの製品供給への支障 気候変動について、政策や規制など気候変動対策や社会的要求の変化に関連する施策によるコスト増加 製品の安全性・品質の確保不足による、お客さま満足度と信頼性の低下およびPL訴訟での賠償責任の発生 地政学的問題や、環境・人権などのCSR要素による当社グループに対する部品や原材料等の安定提供の困難 	<ul style="list-style-type: none"> 環境変化やリスクに強いグローバル生産体制の構築によるグローバルで安定的なものづくりの実現 気候変動対策による企業価値の向上 お客さまのご要求に沿った製品・サービスの品質向上 部品や原材料等の安定的な確保 	<p>“安川ソリューションファクトリ”コンセプトの国内外展開によりグローバルでの生産効率化/最適化を進める。</p> <p>CO₂排出量を削減し、世界的な気候変動問題へ対応する。</p> <p>製品の安全・安心によりブランドイメージを向上する。</p> <p>サステナブル調達ガイドライン遵守を原則としたサプライチェーン管理を実施する。</p>
⑤ 働きがいのある職場づくりと人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 人材の採用・育成の遅れ、優秀な人材の流出による競争力の低下 人権に対する法令違反など、人権問題を発生させた場合の社会的信頼の失墜 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観や考え方をを持った人材の獲得 すべての従業員が各人の能力を最大限に発揮することによるイノベーションの創出 自社の技術を活かした社会的貢献による企業価値の向上 	<p>女性の活躍を推進することにより多様な人材の強みを発揮する。</p> <p>人事理念に基づいた人づくりを実現し、社員の働きがいを向上させる。</p> <p>業務上の休業災害をなくし、安全な職場を実現する。</p> <p>従業員一人ひとりが安心して働くことができ、最大限に能力を発揮できる環境を整備することで生産性を向上させ、会社と従業員の持続的な発展を目指す。</p> <p>従業員の人権意識を向上させ、人権が尊重された職場を実現する。</p> <p>「ものづくりの進化」を担う人材の育成に取り組み、それぞれの地域と共生・共創する社会貢献活動を推進する。</p>
⑥ 公正かつ透明性の高いガバナンス体制	<ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンスの実効性低下によるステークホルダーからの信頼喪失 サーバ・システムダウンやネットワーク障害による事業継続への支障 	<ul style="list-style-type: none"> 経営の意思決定の迅速化と、経営の健全性の向上 レジリエントな情報システムの維持・強化によるお客さまへの信頼性の高い製品・サービスの提供 	<p>投資家との建設的な対話を通じ、持続的な成長と企業価値の向上を図る。</p> <p>セキュリティ組織のレベルアップを図り、自律的かつ継続的な情報セキュリティ体制を構築する。</p> <p>コンプライアンスリスクの早期発見により重大化を未然に防止する。</p>

- *1 国内工場間接・直接要員1人当たり売上高(2019年度比)
- *2 2022年4月目標値を変更
- *3 2024年4月目標値を変更
- *4 2022年5月の2050年カーボンニュートラル目標の改定に伴い、目標値を変更
- *5 2024年4月目標を設定

- *6 2025年4月目標を設定
- *7 2024年6月目標値を変更
- *8 自身が任された業務内のスキルにおいて人に教えることができるレベルの人材
- *9 2024年6月プロフェッショナル人材の定義および目標値を変更
- *10 2024年4月取組みを追加
- *11 2024年4月目標を変更

取組み【目標】		2024年度進捗
<ul style="list-style-type: none"> ●「i³-Mechatoronics」プロジェクトの成功事例の蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> ●「i³-Mechatronics」コンセプトを実現するキープロダクト(MOTOMAN NEXTシリーズ、YRMコントローラ、Σ-Xシリーズ、YASKAWA Cell Simulator、YASKAWA Cockpit)によるお客さまへのアプローチの加速 ●i³-Mechatronics CLUBの拡充とCLUBメンバーとの協業加速 	
<ul style="list-style-type: none"> ●CCE 100 (Contribution to Cool Earth 100)の達成【2025年度：100倍】 		93.6倍
<ul style="list-style-type: none"> ●「省エネ」「クリーンパワー」「食品・農業」「バイオメディカル」の4分野を中心にメカトロニクス技術を活用展開した取組みを拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●「省エネ」「クリーンパワー」「食品・農業」「バイオメディカル」を中心にメカトロニクス応用領域での取組みを推進 ●エレベーターの消費電力削減に貢献する専用インバータ「LA700」の販売開始 ●太陽光発電用パワーコンディショナ「Enewell-SOL P3A」の国内自家消費市場向け拡販 	
<ul style="list-style-type: none"> ●M&A/アライアンスを通じた新領域への取組みの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●当社の事業領域である工場自動化およびメカトロニクス応用領域において、技術的シナジーの創出に向けてM&A/アライアンスを活用した成長機会の積極的な探索を継続 ●アステラス製薬と細胞医療製品の製造プラットフォームの開発および提供を行う合併会社の設立に関して契約を締結 	
<ul style="list-style-type: none"> ●産学官連携の取組みの強化 		当社の将来技術に寄与する研究開発について、国内外との産学官連携を推進
<ul style="list-style-type: none"> ●最先端ものづくりの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●自社工場における生産効率の改善(生産性指標*1の向上)【2022年度：+19%*2 2025年度：+34%(2019年度比)*3】 	生産性指標：+18%(2019年度比)
<ul style="list-style-type: none"> ●グリーンプロセスを通じた温室効果ガスの排出量削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●温室効果ガス(CO₂)の排出量削減【2025年度：△30%*4(2018年度比)】 	△23.4%(2018年度比)
<ul style="list-style-type: none"> ●製品の安全・品質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●当社グループ全体のPL(Product liability: 製造物責任)委員会体制による製品安全の担保【2025年度：「PLの芽」事業のリスクアセスメント実施率100%*5】 ●新たなシステム導入を通じた製品品質の向上【2025年度：市場品質情報一元化システムのグローバル運用2拠点追加*6】 	<ul style="list-style-type: none"> ●リスクアセスメント実施率：100% ●グローバル適用拠点：インドでのCRM環境構築
<ul style="list-style-type: none"> ●サステナブルなサプライチェーンの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ●サステナブル調達ガイドライン遵守率の向上【2022年度：遵守率100%*2(対象：安川電機の主要取引先) 2025年度：遵守率100%(対象：安川グループの主要取引先)】 	海外グループ会社2社へのサステナブル調達活動の方針展開・ガイドライン制定完了
<ul style="list-style-type: none"> ●ダイバーシティとインクルージョン 	<ul style="list-style-type: none"> ●女性管理職比率の向上【2025年度：単体・国内グループそれぞれ3.4%*7】 	女性管理職比率：2024年度末 単体 2.5%、国内グループ 3.2%
<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロフェッショナル人材*8の比率向上【2025年度：全社平均20%以上*9】 	プロフェッショナル人材比率：13%
<ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生 	<ul style="list-style-type: none"> ●休業災害度数率の改善【2025年度：単体：0.2以下の維持 国内グループ・グローバル主要生産拠点：0.4以下の維持】 	休業災害度数率：単体 0.00、国内グループ 0.19、グローバル 0.34
<ul style="list-style-type: none"> ●健康経営*10 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康経営実現に向けた指標の改善 	健康経営実現に向けた指標改善(10項目中9項目)、「健康経営優良法人2025」認定継続
<ul style="list-style-type: none"> ●人権と労働慣行 	<ul style="list-style-type: none"> ●従業員の人権デューデリジェンスのプロセス導入・定着【2022年度：国内グループ向け人権デューデリジェンスの実施 2025年度：EUサステナビリティ法令の要件を見据えた対応検討*11】 	単体・国内グループ：人権デューデリジェンスの継続実施 海外：主要拠点における法的・社会的要請の確認
<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ●「ものづくりの進化」を担う理系人材の育成【2025年度：新プログラム「ロボット手作り教室」実施回数6回】 	新プログラム「ロボット手作り教室」開始 実施：2回
<ul style="list-style-type: none"> ●コーポレートガバナンス・コードを踏まえたガバナンスの実効化 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーポレートガバナンス・コードの各原則の実施(未実施の場合は合理的な説明) 	「プライム市場」選択企業に求められるコーポレートガバナンス・コードの各原則を踏まえたガバナンスの実効化
<ul style="list-style-type: none"> ●情報セキュリティの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●システムにおける社内外セキュリティ監視・対策と外部監査機関によるセキュリティレベル評価・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報セキュリティ人材および体制強化 ●セキュリティ脅威分析サービスを活用したグローバルSOC(セキュリティ・オペレーション・センター)による当社ブランドの監視と潜在的リスクの早期発見、対策実施 ●グローバル拠点のセキュリティ監査と海外各国の情報セキュリティ法案への取組み実施
<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●内部通報制度等を活用したコンプライアンスの強化 ●海外を含むコンプライアンス担当者との会議開催による連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●内部通報その他コンプライアンス事案への適切な対応の継続 ●海外を含むコンプライアンス担当者との会議の開催

長期経営計画「2025年ビジョン」

安川グループは、2015年の創立100周年を起点とした10年間の長期経営計画「2025年ビジョン」(2016～2025年度)を掲げています。「2025年ビジョン」では、コア事業の進化により、お客さまの経営課題の解決に寄与するとともに、メカトロニクス技術を応用した新規分野の拡大により、社会に新たな付加価値を生み出すことを基本方針としています。

2025年に向けた外部環境認識

先進国の少子高齢化などの世界的な人口構成の変化

エネルギー消費拡大による環境問題や気候変動

5G通信やIoTなど急激に進化する情報通信技術

安川グループ 事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する

経営理念

- 品質** 品質重視の考えに立ち、常に世界に誇る技術を開発、向上させること。
- 利益** 経営効率の向上に努め、企業の存続と発展に必要な利益を確保すること。
- 市場** 市場志向の精神に従い、そのニーズにこたえるとともに需要家への奉仕に徹すること。

2025年で目指す姿

Respect Life

100年の技術の蓄積を生かし、生活の質向上と持続可能な社会の実現に貢献する。

Empower Innovation

新しい技術・領域・目標に向かい人々の心に「わくわく」を届ける。

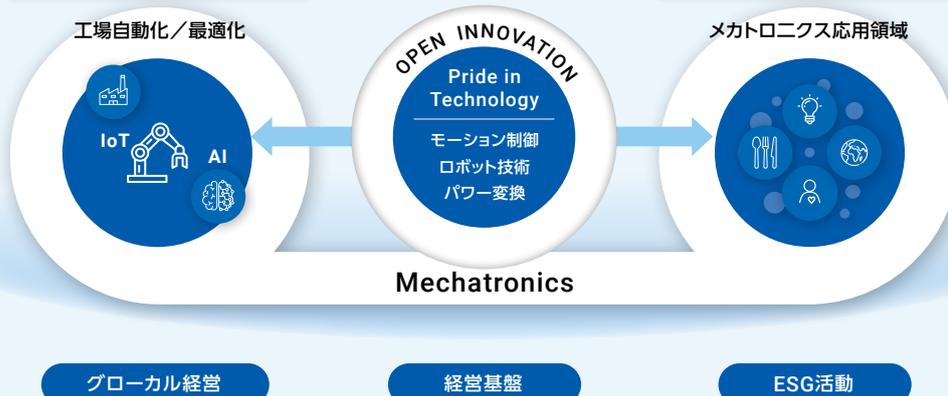
Deliver Results

継続的な事業遂行力の向上により、ステークホルダーに確実な成果を届ける。

2025年ビジョン

「i³-Mechatronics」を軸とした工場の自動化/最適化事業

社会の持続的な発展に向けた新たなメカトロニクス応用領域



2025年度財務目標

営業利益を最重要KGIと置き、次ページに説明する3つの中期経営計画において実現に向けた方策を展開しています。

営業利益	ROE*1	ROIC*2	配当性向
1,000億円以上	15.0%以上	15.0%以上	30.0%+α

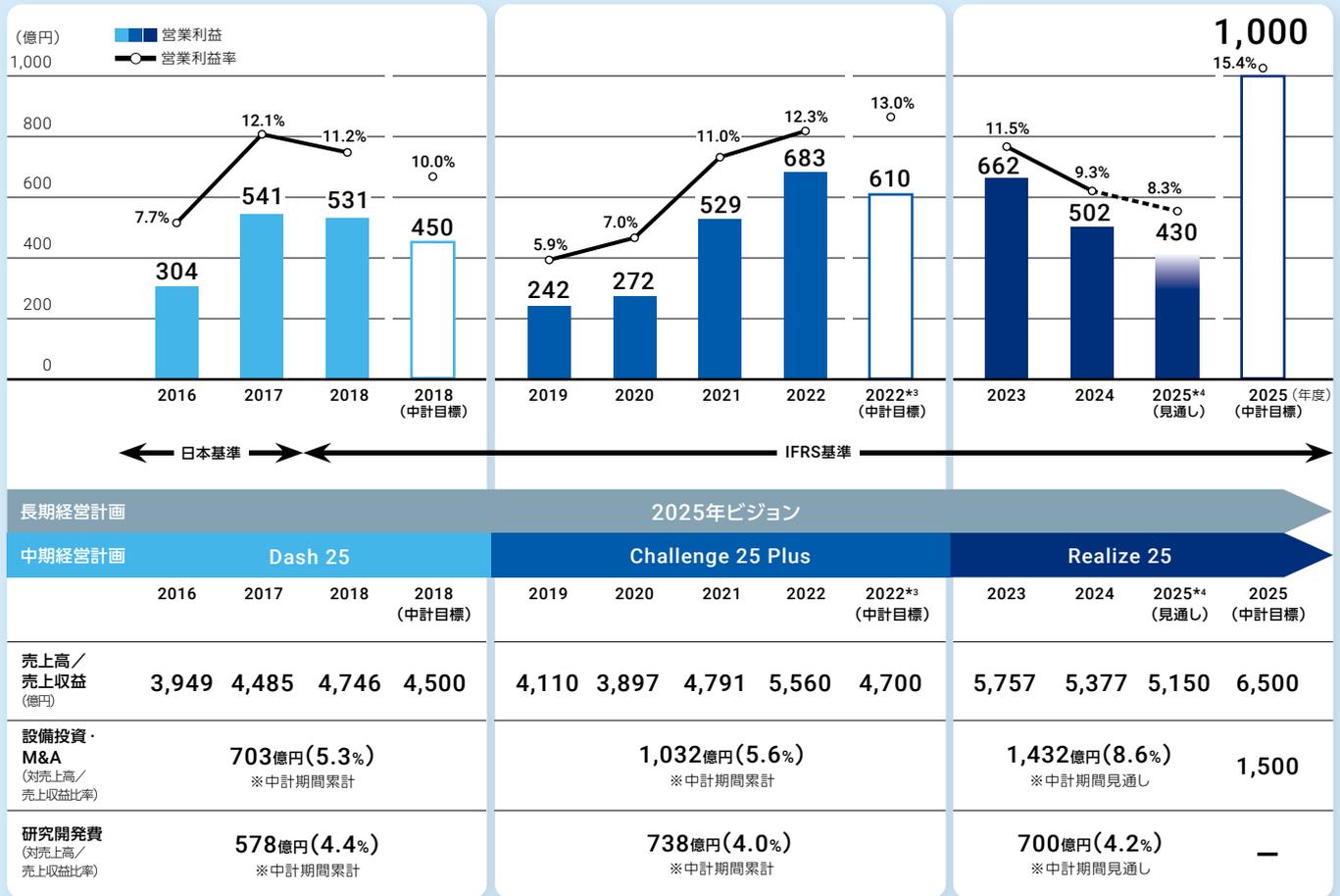
*1 ROE: Return on Equity (自己資本利益率) = 親会社株主に帰属する当期純利益 / 自己資本

*2 ROIC: Return on Invested Capital (投下資本利益率) = 親会社株主に帰属する当期純利益 / 投下資本

2025年ビジョンの進捗

当社は、「2025年ビジョン」の10年間を3つの中期経営計画期間に分け、その実現に向けて取組みを進めています。

2024年度は、ビジョンで目指す姿の実現に向け様々な取組みを推進した一方、足元の厳しい需要動向を反映した2025年度の業績見通しを発表しました。(2025年7月見通しの修正を公表)



基本方針

高収益企業体質の確立

- ・「Realize 100」(2013~2015年度)の成果最大化
- ・「2025年ビジョン」実現に向けた基盤構築
- ・Clean Power事業のコア事業化
- ・グローバル経営の進化

新しい価値・市場の創造に挑戦

徹底した収益性改善

- ・「i³-Mechatronics」によるビジネスモデル変革
- ・「i³-Mechatronics」を通じた成長市場での収益最大化
- ・サステナブルな社会構築に向けた新領域への展開
- ・デジタル経営と品質経営を通じた経営効率の向上

ビジョンの実現

- ・「i³-Mechatronics」ソリューションによる価値創出
- ・世界一/世界初の自動化コンポーネントを軸としたグローバル成長市場攻略
- ・メカトロニクス応用領域の事業拡大によるサステナブルな社会の実現に貢献
- ・YDXとサステナビリティ経営の深化による経営基盤の強化

成果

- ・「i³-Mechatronics」の始動
- ・営業機能統合による販売力強化
- ・中国/欧州を中心に需要地生産の拡大
- ・「食」の生産自動化事業の本格立上げ
- ・AIソリューションの開発子会社設立
- ・太陽光発電向け新製品の市場投入

- ・ロボット生産の構造改革
- ・安川テクノロジーセンターの稼働開始
- ・YRMコントローラ、Σ-Xの市場投入
- ・EV・バッテリー設備投資の需要捕捉
- ・YDXによるグローバルデータ一元化
- ・サステナビリティ方針策定とマテリアリティ特定

詳しくは **P.26** 2024年度の取組みを参照

課題

(次期中計へ
方策展開)

- ・「i³-Mechatronics」を実現する新製品開発力強化
- ・「i³-Mechatronics」の浸透とソリューション提案力強化

- ・「i³-Mechatronics」導入に向けたパートナーの拡大
- ・自動化・内製化の加速による生産能力の強化
- ・食品・農業分野、バイオメディカル分野の収益化

詳しくは **P. 26** 2024年度の取組みを参照

*3 経営環境の変化を受け、2021年4月に「Challenge 25」(2019~2021年度)の最終年度を1年延長し、目標を改訂

*4 2025年度見通しは、2025年7月4日公表時点

中期経営計画「Realize 25」

安川グループは長期経営計画「2025年ビジョン」の最終ステップとして、中期経営計画「Realize 25」(2023~2025年度)を遂行しています。

目指す姿と基本方針

「Realize 25」では、「i³-Mechatronics」の展開とロボティクスの進化により新たな価値を創出し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。また、投資については、将来の持続的成長を確固たるものとするために、3年間の累計で1,500億円を計画しています。

基本方針・方策

基本方針 1 —— 「i³-Mechatronics」ソリューションによる価値創出

「お客さまへのソリューション」を実現するために、当社グループの強みである「モノ(製品・技術)」をさらに強化します。加えて、その「製品」を最適かつ持続的に供給するために、当社グループの生産現場が「i³-Mechatronics」を実行するフラッグシップとなり、最先端の「ものづくり」を実現することで、製品の競争力をさらに高めます。そして、これらの一連の工程に関する膨大なデータを活用することにより、高い「品質」を実現し、お客さまに持続的なソリューションを提供します。

これが、「i³-Mechatronics」のソリューションコンセプトです。お客さまが求める「コト」を、当社グループの強みである「モノ」でシームレスにつなぎ実現することで、お客さまへの貢献性を高めます。これにより、当社グループのビジネスの領域を拡大し、さらなる価値の創出につなげていきます。

新たな産業自動化革命の実現へ



基本方針 2 —— 世界一/世界初の自動化コンポーネントを軸としたグローバル成長市場攻略

自動化コンポーネントを中心にEV、バッテリー、半導体、食品などの成長市場において、グローバルでの市場別戦略を展開しながら、需要を確実に捉えています。

また、各事業の日本のマザー工場において、開発・調達・生産の連携を進めるとともに、需要地生産という考え方を軸に、グローバルな生産体制を強化していきます。これらを実行することで、環境変化やリスクに強い、グローバルで安定的なものづくりを実現していきます。

基本方針 3 —— メカトロニクス応用領域の事業拡大によるサステナブルな社会の実現に貢献



設備の環境負荷低減に貢献する「グリーンプロダクト」の拡販により、お客さまの「省エネ性の向上」と「環境負荷の軽減」を実現します。

太陽光発電用/パワーコンディショナの新製品を軸に事業を本格拡大し、世界トップクラスの「創エネ」を実現します。

当社のコア技術を結集し、農業分野の自動化をはじめ、食の安全と安定供給の実現をサポートすることで、グローバルな社会課題の解決に貢献します。

自動化ソリューションの展開により、「すべての人が人間らしく、より豊かに、輝ける未来」の実現を目指します。

基本方針 4 —— YDXとサステナビリティ経営の深化による経営基盤の強化

① PLM*1の再構築をベースとしたYDXチェーンによる新たな価値提供

「モノ」の生い立ちから、生産の流れ、そしてその過程におけるサプライチェーンの情報などをデータでつなぎながらプロダクトライフサイクルマネジメントを再構築することで、業務改革を進め、お客さまに新たな価値を提供します。

② マテリアリティへの取組み強化を軸としたサステナビリティ経営の推進*2

サステナビリティ方針においては、「i³-Mechatronics」を通じた社会への貢献について、KPIの設定を含めマテリアリティを特定しました。これら取組みについて、PDCAを回しながら強化を図ります。また、事業を支える「人」にもフォーカスします。グローバルに経営理念の浸透を図り、安川グループが一丸となる「One YASKAWA」を目指します。

*1 PLM: Product Lifecycle Management

*2 P.20「中期経営計画「Realize 25」におけるサステナビリティ推進の考え方」を参照

2023-2024年度の総括

「Realize 25」の前半2年間においては、半導体市場および中国市場を中心に外部環境が当初想定した方向に向かわず、計画達成に必要な物量には届かないことから、「Realize 25」で掲げた「営業利益1,000億円」の達成は現時点では困難であると見込んでいます。しかしながら、足元の厳しい需要動向の中でも、「Realize 25」の基本方針に基づく各施策は着実に進捗しています。特に設備投資においては、国内ロボット機械加工工場の建設完了やモータ・ロボット一貫生産工場の新設に着手するなど自動化を進めています。加えて、欧米での事業拡大に向けた工場・事業所の拡張など、地域ごとに体制の強化を図っています。

2024年度取組み

需要獲得の最大化・利益構造の最適化に向けた取組みを愚直に実行

	成果	課題 (2024年度の実績を踏まえた2025年度への方策展開)
基本方針 1	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産現場のセルを統合制御し「i³-Mechatronics」を実現する欧米市場向けマシンコントローラ「iC9200」の販売を開始 <p>【生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 八幡西事業所のロボット工場(第1工場)の組立工程に「MOTOMAN NEXT」を導入し、自動化やデータ活用により大幅な生産性向上を実現 スロベニアにおいては、欧州におけるロボットシステム工場の拡張とディストリビューションセンターの建設を推進 <p>【販売】</p> <ul style="list-style-type: none"> i³-Mechatronics CLUBを通じた各分野のパートナーとの協業を加速 <p>【品質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当社製品の稼働状況から適切なタイミングで設備の更新・メンテナンスをプロアクティブにお客さまへ提案するサービス活動を強化 	<p>【“コト”を実現する「i³-Mechatronics」活動の成果最大化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「i³-Mechatronics」に基づき、お客さまの“コト”(改善・進化)を実現する提案営業を定着させ、その活動を通じたコア製品(ACサーボ[Σ-X](シグマ・テン)、インバータシリーズ等)の需要獲得を最大化 「MOTOMAN NEXT」の市場投入の拡大とパートナー連携の拡充も確実に実行するとともに、iCube Control^{®3}(アイキューブコントロール)のラインアップである「YRM1000/iC9000シリーズ」のグローバル展開を加速 八幡西事業所のモータ・ロボット一貫生産工場(第5工場)の新設ならびに行橋事業所および入間事業所の生産強化プロジェクトの具体化を加速
基本方針 2	<ul style="list-style-type: none"> グローバルにおける主要部品の内製化、事業部共通の重点部品の集中調達を実行 欧米での事業拡大に向けた投資の確実な実行による生産/調達体制・需要地生産体制を強化 	<p>【市場・地域の変化を俯瞰的に捉えた網羅的な活動による収益最大化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 半導体や自動車などの各市場における設備投資の動向を俯瞰的に捉え、受注獲得を最大化 中核販社および拡張パートナーとの協働を通じ、お客さまへの当社製品の提供を拡大 将来的に市場拡大が見込まれるインド市場における成長戦略と投資計画の明確化と実行 欧州・中国における競争環境の変化を捉えた事業構造改革の完遂
基本方針 3	<p>【Energy Saving】</p> <ul style="list-style-type: none"> エレベーターの乗り心地の向上や待機中の消費電力削減に貢献するエレベーター専用のインバータ「LA700」の販売を開始 <p>【Clean Power】</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電用パワーコンディショナ「Enewell-SOL P3A」の拡張による国内の自家消費市場での取組みの強化 <p>【Food&Agri】</p> <ul style="list-style-type: none"> JA全農と協業開発を進める「きゅうりの葉かき作業の自動化」が実用段階に到達 <p>【Biomedical Science】</p> <ul style="list-style-type: none"> アステラス製薬と汎用ヒト型ロボット「まほろ」を活用した細胞医療製品の製造プラットフォームの開発およびスタートアップやアカデミアにプラットフォームの提供を行う合弁会社の設立について契約を締結 	<p>【パートナー連携によるメカトロニクス応用領域の事業化】</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルで投資が加速するデータセンターにおけるインバータ適用拡大の取組み強化 自家消費向け太陽光発電用パワーコンディショナ拡張の強化 医療・農業分野における自動化をパートナーとの連携で展開し、検証・評価から実導入への移行による事業化を加速
基本方針 4	<ul style="list-style-type: none"> PLM(Product Lifecycle Management)再構築のベースとなる安川データレイクの構築が完了 	<p>【「YDX-II」*4 実践による付加価値創造と持続可能な経営基盤の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場との連動を意識したPLMの再構築、基幹システムの刷新に伴う業務移行の完遂とデータ基盤の強化 生成AIの利活用に向けたデータガバナンスの強化と活用環境の整備実行

*3 iCube Control : 「i³-Mechatronics」を実現するコントローラソリューション

*4 YDX : YASKAWA Digital Transformationの略。第1フェーズである「YDX-I」では、経営資源の可視化・一元化とその最適配置を目指した活動を実施。「YDX-II」では、製品・サービス視点でのお客さまへの価値創出を実施。